

日立ITユーザ会会員 各位

日立ITユーザ会
論文委員長 森口 幸浩
(レンゴー株式会社)

第63回大会 論文募集のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、表題の件、2026年度第63回大会に向け、大会論文を募集します。

生成AIやビッグデータなどITの先進的な活用への取組み、ワークスタイル変革、SDGsへの取組み、セキュリティリスクの高まりやグローバル化・標準化など会員の皆様を取り巻く環境変化やDXへの対応、それらを推進するための人材育成への取組みなどを、会員の皆様のIT活用推進の参考になるよう論文として纏めて応募いただきたく存じます。日頃の活動成果を纏める機会や論文執筆を通じた人材育成の一環として、情報システム部門はもとよりユーザ部門の方々も是非ご応募下さい。

最後に、若手チャレンジ論文は、若手の皆様が日頃の情報システムに関する業務のなかで取組んだ創意、工夫や問題解決へのチャレンジ、それらを通じた学びをテーマとして取り纏めることを趣旨としています。執筆者ご自身の役割を明確にし、着眼、苦労、工夫等が自身の成長にまた会社にもどのような貢献・効果をもたらしたかを纏めて下さい。これからを担う若い方々からの積極的な応募をお待ちしています。

敬具

記

1. 論文区分・テーマ

「一般論文」「小論文」「若手チャレンジ論文」の3区分。

従来通り、情報システム利用に関するあらゆる分野を対象とし、先進性、独創性のあるものや他ユーザ会員へも参考となり適用性がある取組みを対象として募集します。最近のIT活用の進化やIT人材への期待の多様化などを踏まえて纏めて下さい。

3区分とも会員会社の社内で既に発表されたテーマでも構いません。なお、市販パッケージや流通ソフトの導入をテーマとする場合は、単に製品紹介ではなく利用サイトでの事例紹介、ユーザとしての視点で纏めて下さい。また、会員会社の事業内容、製品紹介等宣伝に類する内容はご遠慮下さい。外部団体の活動をテーマとする場合も、活動紹介のみならず、執筆者の提言の視点で纏めて下さい。

(1) 「一般論文」

新しい知見に富み、応用性があり、大きな効果・成果が得られた、または実現性が期待できる内容を10～15頁に纏めて下さい。

(2) 「小論文」

新しい知見に富み、応用性があり、新たな取組み(進行中を含む)の纏めと成果、または新技術活用の提案・提言が記述されており、実現性が期待できる内容を7～8頁に纏めて下さい。

(3) 「若手チャレンジ論文」

応募資格(下記)を有する若手が、業務のなかで取組んだ創意、工夫や問題解決へのチャレンジ、それらを通じた学びをテーマとして、執筆者がどのように取組み、その取組みが執筆者自身の成長やプロジェクト・業務などにどのような効果・成果をもたらしたかを7～8頁に纏めて下さい。

論文執筆を通じた人材育成への活用も目的としていますので、「論文原稿提出用紙」の5項「指導者の所見(何を期待して論文として纏め応募したのか、指導のポイント等)」も提出をお願いします。

* 区分を選択する際のご参考:【論文区分選択チャート】

<https://www.it-user.hitachi.co.jp/Download/?id=A3D82EB2-2339-44D1-BF07-A109ACB552A3>

2. 応募資格・条件

- (1) 論文執筆者の所属会社が日立 I T ユーザ会の会員であることが必要です。非会員の場合は入会手続き後ご応募下さい。
- (2) 論文執筆者については、その職位、業務についての経験などは問いません。
また、「一般論文」「小論文」については共同執筆も可としますが、共同執筆者の所属会社が会員であることが必要です。「若手チャレンジ論文」は単独執筆とします。
- (3) 「若手チャレンジ論文」については、応募登録時に執筆者が 30 歳未満であることが条件です。
但し、入社 3 ～ 5 年を目安とします。
- (4) 「一般論文」「小論文」は、応募編数に制限はありませんが、「若手チャレンジ論文」は 1 会員につき 2 編を上限とします。
- (5) 論文執筆者が所属する外部団体の活動をテーマとする場合は、その団体が非会員でも問題ありませんが、所属会社およびその団体の承諾を得て下さい。
- (6) 他団体等に応募された論文による当会への応募はご遠慮いただくものとします。

3. 応募登録締切り : 10月17日(金) ※会員名・執筆者・論文題目・区分の登録です。
(原稿提出時に登録内容の変更は可能です)

4. 原稿提出締切り : 11月21日(金)

5. 留意事項

- (1) 各論文とも執筆にあたっての留意点がございます。執筆要領、テンプレートは毎回見直しますので、必ずコミュニティサイト(当会ホームページ)より最新版をご参照、ご活用願います。
<https://www.it-user.hitachi.co.jp/Paper/About/>
- (2) 提出論文の取扱いについて
提出論文の著作権は日立 I T ユーザ会に帰属します。提出論文の他団体等への無断転載、複製はご遠慮下さい。ただし、応募会員が属す法人内での利用を制限するものではありません。

6. 論文の審査

「論文委員会」にて「一般論文」、「小論文」、「若手チャレンジ論文」毎に審査します。
下記基準による区分毎の審査を行い、総合評価の上「日立 I T 論文賞」各賞を決定します。
なお、締切りを過ぎて提出された場合は減点の対象となりますので、ご注意願います。
審査結果は、2026年3月上旬にコミュニティサイトにて発表します。

(1) 「一般論文」

(1) 独創度	●新しい知見に富み、独創性が高い。 ●ユニークな構想またはアイデアで、多くの示唆に富む。
(2) 有効度	●応用性があり、他ユーザへの参考度・適用性がある。 ●大きな効果・成果が得られた、または、実現性が期待できる。
(3) 表現度	●着眼点・論旨等、起承転結が明快に記述されている。 ●具体的かつ客観的で、読む人の立場で分かり易く記述されている。 ●執筆要領に従っている。

(2) 「小論文」

(1) 独創度	●新しい知見に富み、独創性が高い。 ●ユニークな構想またはアイデアで、多くの示唆に富む。
(2) 有効度	●応用性があり、他ユーザへの参考度・適用性がある。 ●新たな取組み(進行中を含む)の纏めと成果、または新技術活用の提案・提言が記述されており、実現性が期待できる。
(3) 表現度	●着眼点・論旨等、起承転結が明快に記述されている。 ●具体的かつ客観的で、読む人の立場で分かり易く記述されている。 ●執筆要領に従っている。

(3) 「若手チャレンジ論文」

(1) 独創度	●若手の視点からの業務・制度などの改善・改革が示されている。 ●若手らしいチャレンジ性に富み問題解決への行動内容が明確である。
(2) 有効度	●執筆者ならびに会社 に一定の効果が得られた、または実現性が期待できる。 ●応用性があり、他若手やユーザへの参考度・適用性がある。
(3) 表現度	●着眼点・苦労点等、起承転結が明快に記述されている。 ●具体的かつ客観的で、読む人の立場で分かり易く記述されている。 ●執筆要領に従っている。

7. 論文に対する表彰

(1) 『日立 I T 論文賞』

『日立 I T 論文賞』に入賞の論文には、第 6 3 回大会での論文表彰式(2026 年 7 月予定、関西支部担当)にて、表彰状と下記副賞を贈呈します。論文表彰式には執筆者 1 名を招待します。

《一般論文》 特賞 50 万円または最優秀賞 30 万円 (1 編)、
優秀賞 (数編) 25 万円、 優良賞 (数編) 15 万円

《小論文》 最優秀賞 (1 編) 20 万円、優秀賞 (数編) 15 万円、 優良賞 (数編) 8 万円

《若手チャレンジ論文》 優秀賞 (数編) 15 万円、 優良賞 (数編) 8 万円

(2) 『論文委員会奨励賞』

上記入賞論文以外で、コミュニティサイトに掲載された論文については、『論文委員会奨励賞』として、「一般論文」に 2 万円、「小論文」「若手チャレンジ論文」に 1 万円を贈呈します。

※賞金は会社口座への振り込みとなります。

8. 論文掲載ならびに論文発表実施について

(1) コミュニティサイト (<https://www.it-user.hitachi.co.jp>) への論文掲載

2026 年 5 月 (予定) にコミュニティサイトに論文を掲載します。

(2) 大会、シンポジウムおよび支部における発表

入賞論文の中から、第 6 3 回大会(関西支部担当)、2026 四国シンポジウム (四国支部担当) および、支部行事 (論文発表会等) で発表をしていただきます。

(3) 一般論文の「特賞」または「最優秀賞」に選出された論文は、執筆者の承諾があれば
情報処理学会の学会誌「デジタルプラクティスコーナー」に採録されます。

情報処理学会 : <https://www.ipsj.or.jp/>

9. 問合せ先

日立 I T ユーザ会事務局 E-Mail : y-jmk@ml.itg.hitachi.co.jp

以上